

## 水泳学習スタート！



6年生 水泳学習

梅雨の長雨が続き、本格的な夏の到来が待ち遠しいこの頃です。今年は、新型コロナウイルス感染防止のため、近隣の市町村では水泳学習を中止する学校がある中、須高地区の学校は、感染防止対策を十分取ること、実施できると判断し、水泳学習を行うことを決めました。豊洲小学校では、6月下旬から水泳学習がスタートしています。例年であれば、手をつないだり、体と体を寄せあったり、入り交じりながら泳いだりしています。ただ今年は、一人ひとりが距離を取り、接触を避け、泳ぐ方向を一方通行にするなど、密を避けながら学習を進めています。実施に当たって、約束事が増えてしまいましたが、子どもたちは、プールの時間を心待ちにしている、水しぶきに歓声をあげながら、とても楽しそうに学んでいます。自分が立てた目標に向かって少しでも上達してほしいと思います。

## 4年生防災学習の様子が須坂新聞の記事に載りました

昨年の台風19号によって、豊洲小学校は床上浸水の被害を受けました。これまで豊洲地区は幾度となく浸水の被害を受けてきました。総合的な学習時間に「防災」について学びんでいる4年生が、相之島町出身の三木一博さんを講師に迎え、これまでの豊洲地区の水害の歴史や体験をお聞きする機会をもちました。今回学んだことをもとに、今後さらに学習を深めていく予定です。

裏面に須坂新聞に載った記事を掲載しました。ご覧ください。



7月14日（火）授業の様子

## ☆PTA活動より

- 雨降りが心配される中、7月4日（土）に行われたPTA作業では、多くの皆様にご参加いただき、校舎内外を整備いただきました。早朝よりご協力ありがとうございました。
- 今年度のPTA音楽祭の中止が決定しましたのでご報告いたします。なお、校内音楽会（名称変更予定）につきましても、授業時数の確保、感染防止の面から縮小方向のため、今年度はPTAコーラスの発表は行いませんのでご承知おきください。



7月4日（土）PTA作業

## ☆お知らせとお願い

- ・毎日の新型コロナウイルスへの感染防止対応、誠にありがとうございます。一時感染者数0人が続いた長野県でしたが、全国各地への往来が可能となったことで、感染者がまた出始めました。現在は、首都圏の感染者数が急増しています。引き続き、不要不急の外出は避け、新型コロナウイルス感染防止に努めていただくよう、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。毎朝の検温と健康チェックが大切です。体調不良の場合は、登校に十分配慮してください。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、学校行事の精選や実施内容の変更等を進めています。9月19日（土）に予定していた運動会は、これまでのような運動会を実施することは難しいと判断し、名称を「スポーツ交流会」として、9月17日（木）に実施することにしました。密を避ける種目で実施することを前提に、出場種目は、短距離走と連学年種目の2種目とし、午前中2時間程の開催といたします。よって、9月19日（土）は休日、9月23日（水）は登校日となります。平日開催といたしましたので、保護者の皆様のご参観は無理のない範囲でお願いしたいと思います。当日の日程等、詳細につきましては、別途ご案内いたします。

- 校内音楽会においても、これまでの内容で実施することは難しいと考えています。名称：音楽発表会（仮称）とし、学年ごと分散型での実施を検討しています。6年生の修学旅行については、東京都の新型コロナウイルスの感染者数が急増していることから、東京方面の修学旅行を須坂市として実施しないことを決定しました。行き先については、ただいま検討中です。いずれの行事につきましても詳細が決まったところで、改めてご報告いたします。
- 通信アプリを利用したオンライン型のゲームが流行しています。そのゲームによって友だち関係を崩したり、生活習慣を乱したりする子どもが増えています。子どもたちの中で話題となっている「フォートナイト」「ピグパーティー」等を含め、オンラインゲームには対象年齢がありますので、お子さんが行っているゲームについて対象年齢を確認していただきますようお願いいたします。
- 豊洲小学校周辺は、昨年度から「ゾーン30」の区域に指定されています。通学路や生活道路での歩行者の安全な通行を守ることを目的に指定地区内の道路は全て最高速度を一律30キロに制限しています。区域内は豊洲小学校や相之島保育園などがあり通学路が集中しているため指定を受けました。右記のような標識が設置されていますので、通行の際は十分お気をつけいただくようお願いいたします。

ゾーン30標識



7月18日（土）須坂新聞掲載記事

# 災害を学んで地域を知る

豊洲小4年 地域の人から昔の洪水体験を聞く

豊洲小4年松組（25人）は14日、相之島町出身の三木一博さん（79、須坂市高橋町）を講師に招き、地域の水害の歴史や、キティ台風（1949・昭和24年8月31日来襲）の体験談などを聞いた。幾度となく地域住民を襲った過去の災害から、地形の特性や防災に対する意識の持ち方を学んだ。

総合的な学習の時間で『災害』を学ぶ地域を知る授業の一環。三木さんが8歳の頃、キティ台風が襲来した。その年は干ばつで恵みの雨と喜んだが、猛烈



キティ台風来襲により洪水被害に遭った相之島町の写真を見ながら、体験談を話す三木さん＝14日

書よりの堤防は決壊。相之島では三木さん宅を含む3軒が流されたという。水害の歴史については、上高井郡誌、相之島古文書などの資料をもとに、豊洲地区は江戸時代から度々洪水に見舞われ、逃げ遅れによる多数の溺死者や家屋流失が記録に残されている」と説明。「災害は毎年のように起きていた。今の千曲川堤防は昔より高いが、昨年（台風19号豪雨）みたいな越水は始めて。あのような雨は今後も降るだろう。雨には十分に関心を持って」と呼び掛けた。

担任の酒井直治先生は「昨年の台風では実際に学校が浸水。ハザードマップの浸水想定区域に入っていることも理解した。水害の歴史や体験談を聞き、災害は特別なことではないということを児童一人一人、意識できるようにしなければ」と話していた。

同校は昨年、登校日の災害発生を想定して、同校体育館に避難し、児童を保護者に引き渡す防災訓練を取り入れた。今年も先ごろ実施。昨年の台風豪雨災害を踏まえ、避難先を北部体育館に変更して行った。